

住吉一丁目 キャナルシティ博多

福岡県
福岡市

個人施行（4.20ha）平成8年4月工事完了

著名な建築家を活用して 都心部の工場跡地を多機能複合型施設に再生した事業

地区選定の主旨

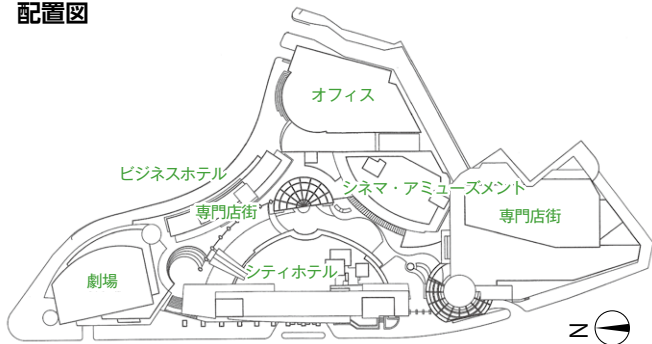
福岡の中心にありながら工場跡地や低層木造住宅・店舗が狭小な道路に囲まれ、周辺の都市開発から取り残されていた場所であったが、著名な建築家による斬新なデザインを採用し、商業・ホテル・オフィス・都市型アミューズメント施設等からなる多機能複合型施設を整備した事業である。また、隣接して流れる那珂川のイメージを取り込んだ運河を施設建築物内に設け、遊歩道やポケットパークを施設全体の顔として魅力的に演出している。水辺のステージでは、ほぼ毎日イベントが行われ、賑わいを生み出しており、福岡のランドマークのひとつとなっている。

再開発の目的と概要

当地区の開発は、地場企業の福岡地所がカネボウ工場跡地の一部を昭和52年に取得したことに始まる民間主導の再開発事業である。福岡市の商業・業務の集積地区である天神地区とJR博多駅地区の間に位置するこの地区は、約半世紀にわたって日本経済を支えてきた近代産業の旗手 鐘淵紡績の工場跡地であったが、昭和34年に閉鎖された後、福岡の中心にありながら忘れ去られた土地になっていた。また、当地区を含む都心部の中央部分は、かつては本市の商業の中心地的区域であったが、昭和40年頃から、天神、博多駅周辺への商業、業務の集積が進むなか、沈滞化が進行していた。このため、当地区と下川端地区に新たな核を形成することによって、都心部全体の回遊性を強化し、都心部全体の均衡ある発展を目指すために昭和55年に当地区の再開発構想が発表された。その後何度も構想の練り直しがなされ、昭和63年にキャナルシティ博多の構想が出来上がり、沈滞化していた都心部の中央部分を再浮上させ、都心部全体の均衡ある発展を促す起爆剤として平成8年に完成し

た。著名なアメリカ人建築家を起用した施設建築物は、曲線的で色彩豊かな建物が並ぶ中央に、約180mの運河（キャナル）が流れ、2つのホテル、商業施設、映画館、常設劇場、ショールーム、業務施設を集結した複合施設となっている。

配置図



従前（駐車場として利用）



従後（写真左手に伸びる青のラインは、川端通商店街とを結ぶ歩道橋）

事業の評価

本事業は、都心部の工場跡地であった低未利用地を高度利用して、大型商業施設の誘致、常設劇場、映画館の設置による商業、文化機能の強化を図るとともに、特色のある施設構成や魅力的な空間整備、水辺のステージでのイベント開催などによる賑わいを創出し、博多部の再生に寄与した。本事業の完了により、博多駅～住吉～天神の回遊性が形成

され、隣接する上川端商店街を含む周辺の活性化を図ることができた。更に平成11年に下川端、下川端東地区の再開発事業により博多リバレインが完成し、新たな回遊性が生まれるとともに強化され、都心部全体の均衡ある発展が促進されている。



那珂川方面からの全景

再開発後から現在までの状況

周辺地区、とりわけ天神と博多駅の2地区と、近接する川端通商店街との間に人の流れが生まれた。福岡市の中心となる各地区間の回遊性が高まることで、都市の魅力・集客力向上を実現した。水と緑溢れる環境づくり、プロジェクションマッピングと噴水を組み合わせた集客装置の導入や、イベント等を取り入れた娯楽性の高い運営に注力し、「時間消費型・体験型施設」と評価されている。九州新幹線開通・新駅ビル（JR博多シティ）の開業にあわせて、平成23年に「イーストビル」を増床した。国内外のアパレル・雑貨ブランドの旗艦店を誘致し、博多駅方面から回遊する観光客、中でも訪日外国人の受け皿として、施設の新たな顔として認知されている。



イベント実施時のステージ



平成23年開業のイーストビル



プロジェクションマッピングの導入



施設中央部の噴水